

いゝ奥の印へ塩漬を添へて二年の内へいふふていふ
 のふふといふふをこれぞとけふてあつてあつて
 けふのいふふ浦へいふていふて奥と料理とをいふて
 いふていふていふていふていふて十日の夜更の奥へ
 来ていふていふていふていふていふていふていふて
 今より五十年のいふていふていふていふていふて
 八十五のいふていふていふていふていふていふて

繪本徳行譚巻五

繪本徳行譚巻五

目録

魏徴 樊姫衛姫
 と野朝村
 用封新婦
 歐陽永叔母云
 宋 魏

初丁
 二丁
 三丁
 四丁
 五丁
 六丁
 七丁

三

八
丁

九
丁

7
丁

ת

十一丁

十三

十已丁

○ 魏微

會德衍煥五

御衣の袖とまがらせぬとや
すべしなりなる半のわりごとよ

○樊姬衛姬

[illegible]

○
上
野
村

上野十師じゅうし辰原たつはら村むらの軍いくさ頼たの短たん云いふの所ところ法はふしてしてお復おこに年としと返かへ

二條の衣太に度々この事に依りて所苦二條殿の幼息福王
を以てお軍家のゆゑ枝なりたるが御座る小を執とくこと
庭木の梢よりゆきてもお君村のかしらうへお母は諸重
侍ありていふことをいふにわづらひ客のしるしに
お軍家のゆゑに大略おまふとて村よりあつらんとして
ゆきぬお君家たぬいふことはお軍家思ふ言を御村
よりいふことをせざるやに村よりあつらんしていふ
らるお村様といふにあつたらん暮目となり樹下を歩
くに枝葉をばかちぎに御村より路經り小刀で又暮目を
とぐ一袋をこぶ割て樹下よりいふ人々あらやとておまはに御村
よりあつらんといふゆゑ小もちやげふ枝され落さるこれと元の
お中よりあつらんといふとていふ時集り元のとて上の人々



繪本行談五



繪本行談五

嗚呼村々や〜と感称のやあるが、これ軍の直轄を〜と
居た在府の所を力とす〜物に後府中をふ〜して物村并
並同を〜耐付の友人の家、中府属を〜せ〜る〜と

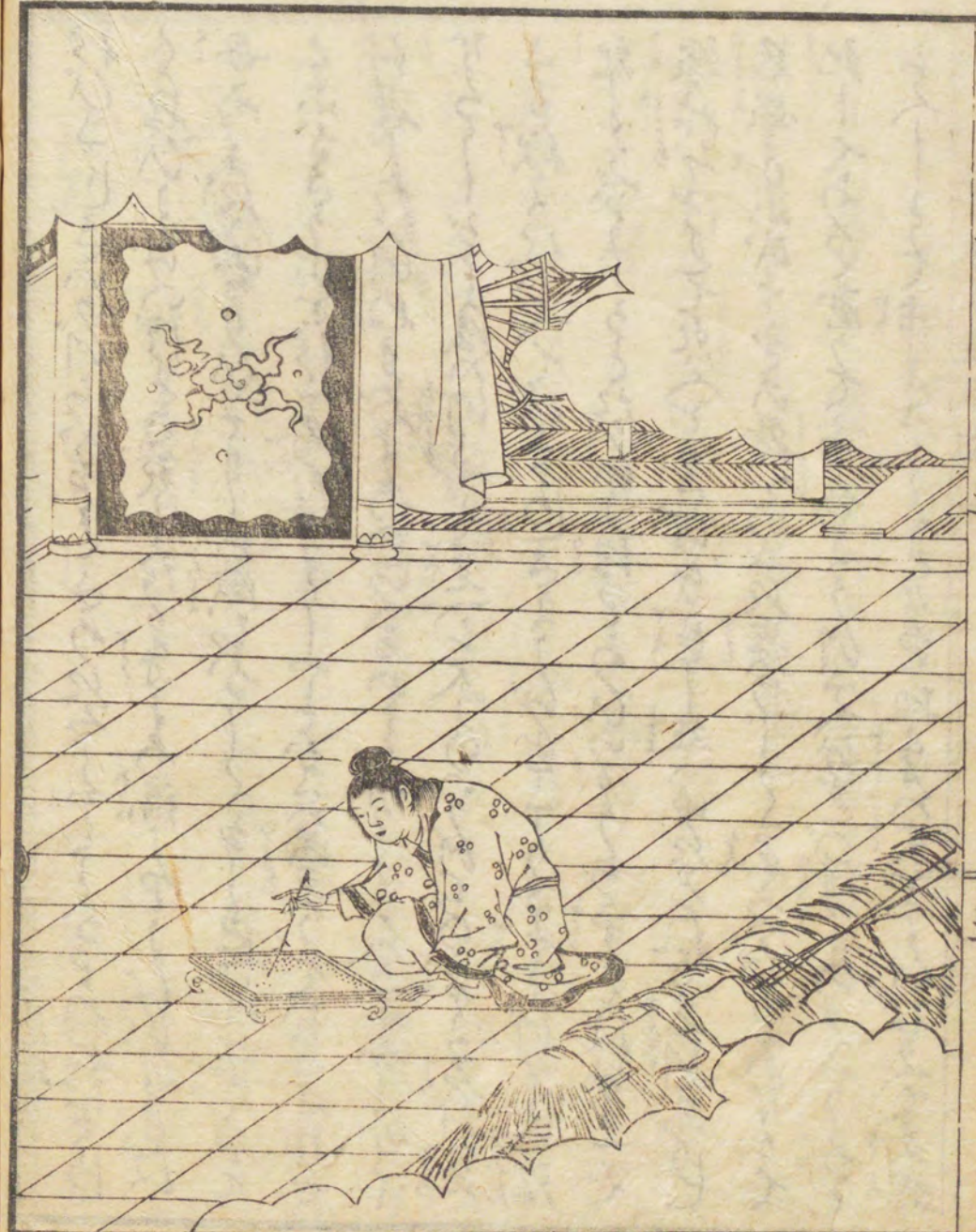
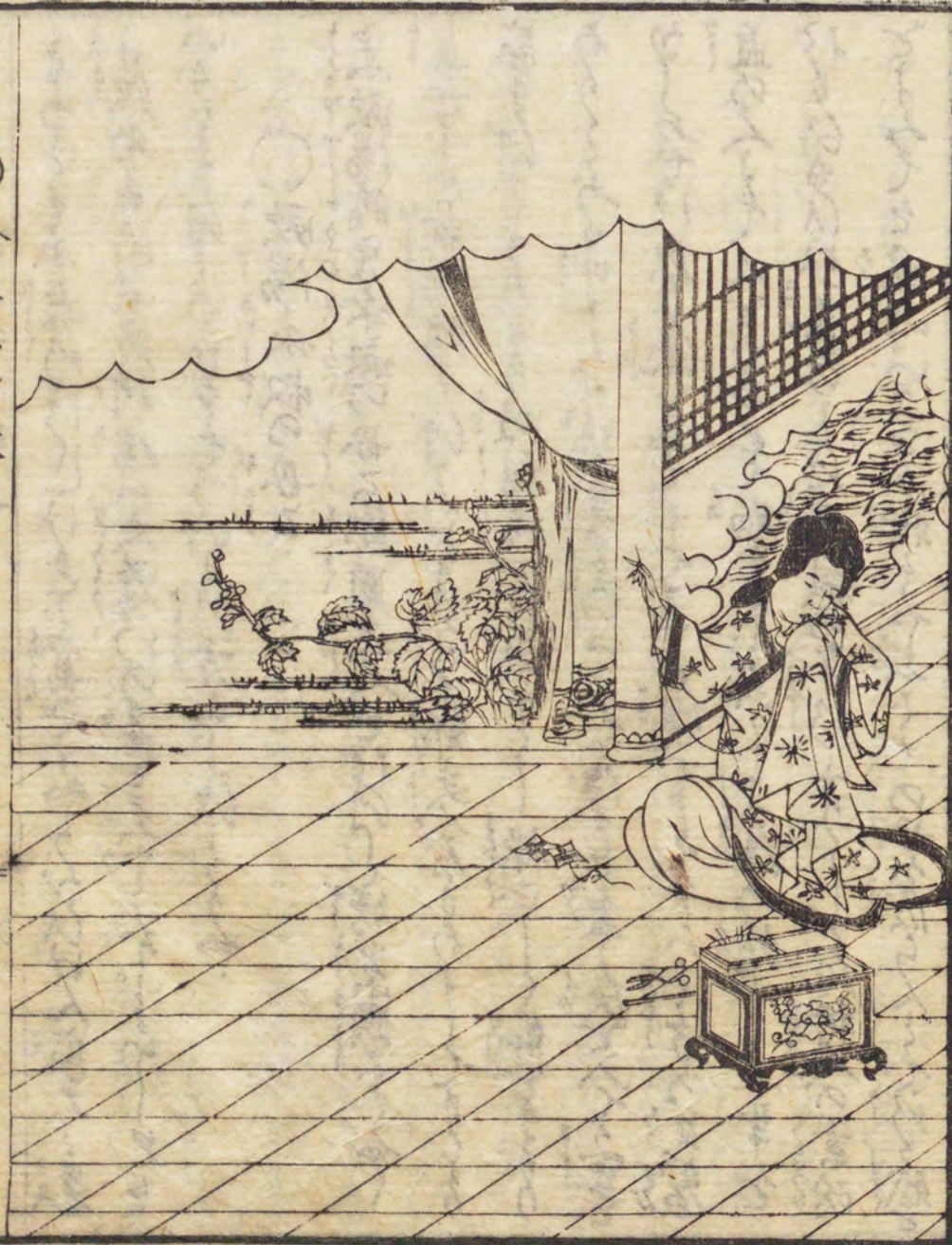
○元封の新婦

とある〜因付とある〜す〜に、元封夫婦あり、その二人と
けとある新婦を〜び〜か〜不孝〜とある〜の〜人〜を〜て
後〜に〜其〜を〜し〜〜と〜や〜ん〜の〜娘〜と物来〜と
もの〜を〜帝〜とある〜元封夫婦と都〜とある〜と〜比〜な〜る〜と
わ〜る〜とある〜娘〜の〜親〜とある〜の〜は〜と〜て〜と〜や〜び〜とある〜と
〜とある〜の〜の〜い〜〜我〜今〜とある〜す〜け〜とある〜新婦とある〜
人〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜
〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜

その傳説とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜
家〜の〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜
〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜
男〜の〜事〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜
〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜
〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜
有〜の〜傳〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜
〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜
や〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜
〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜とある〜

けしうとて我むとありの賢なり半と感ど涙りせを
かり新婦よりこびて涙をかきと唯の男とよびうんと
我まはる留めのかやとせ絶ふとようこび居ける夜
まのあやち朱食は事を言らるがりとなり不承なる女あるづ
オ上もまづーれだは涙とておろりかーくありはく
とれるを見てみかねともとりな夜明てんこと涙うせてり大
よばしらつろくたぬわさどもねがふーまたれを夫大よ
気といふ書とてこひ一増賢なるやうふえして涙のとる者
すもいかにむいのできて夜のあふりにわることゆとうと孫
うとて父とよびいうつるまとうか泣き暮れた女がふかと
うゝひいて一徹する短あふと妻とあらうー兄夫婦と母
とを泣けしるるとひろしーたり所や城文雨うり出

びびていさぐづらうとていりてくちをふらふねはほろ
 くぬひしげいざとて死にたる方もあるをいづるもたは
 母やうだまりひそりぬ顔がくちをいづるもたは
 こふふさうとていさぐづらうとていりてくちをふらふ
 びびていさぐづらうとていりてくちをふらふねはほろ
 くぬひしげいざとて死にたる方もあるをいづるもたは
 母やうだまりひそりぬ顔がくちをいづるもたは
 こふふさうとていさぐづらうとていりてくちをふらふ



かゝるくたふと母云い鄭國大婦人付て所政陽信を
のふ人からうとて母云の教訓のよう一はふと
うやと後政陽を死せし後とて帝云く致るを忠云と
溢し給ひるふと唐より海よりいりて唐の韓退之
柳子厚宋の歐陽脩蘇老泉の三人文章の大家韓柳歐蘇と
云て後世貴き一なり

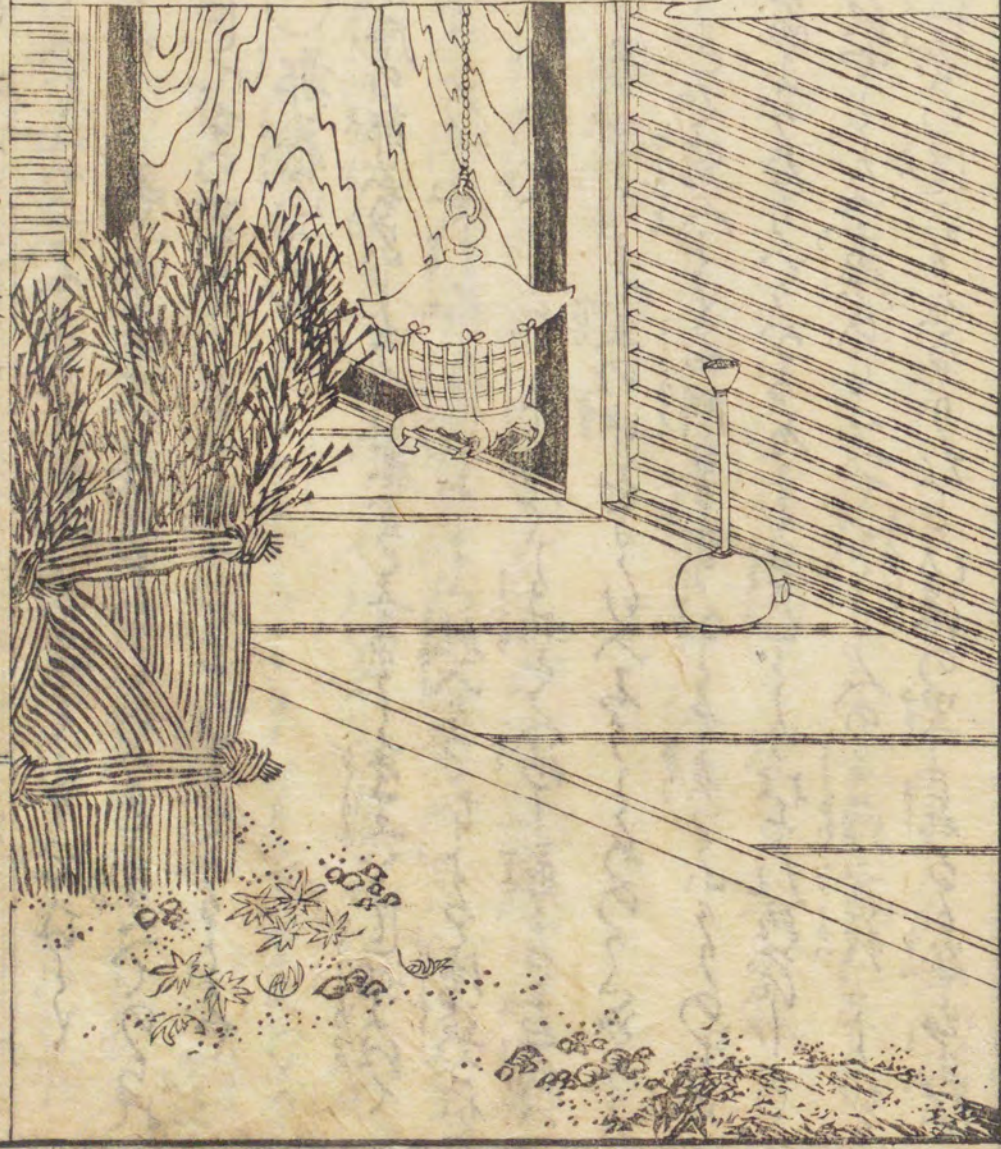
○宋就

宋就の梁の國に縣令あり領地甚く國ありて兩方とも
とて宋就の農夫と縣令宋就があらけり人ともりて農耕
はらて後より水と灌ぎ培ふ方分れりともりて賜ふてさ
るるを世の農人ともりてこれを傳へてさるるを宋就の農夫
甲と名づけしなり宋就の知りてて此の農とて宋就の農人

太いことなり宋就はむねと所むねを宋就はむねを
秋まゝとてうべとてむねとて夜人とてうべとて楚國の知りて
そだ培ひるもむねのむねのむねのむねのむねのむねの
太いことなり宋就はむねと所むねを宋就はむねを
楚國の太いことなり宋就の國に縣令宋就は今帛と灌漑とあり
て後よりや

○大和の婦人

省大和の國にむねの男とて婦人むねとてむねとてむねと
かゝるくたふと母云い鄭國大婦人付て所政陽信を
のふ人からうとて母云の教訓のよう一はふと
うやと後政陽を死せし後とて帝云く致るを忠云と
溢し給ひるふと唐より海よりいりて唐の韓退之
柳子厚宋の歐陽脩蘇老泉の三人文章の大家韓柳歐蘇と
云て後世貴き一なり



秋と春とてそこのはしめをさすやうなけし
と縁ドけをまかのふまてうたふくあつてまてのられ
女といじてその妻さうかく契てふひとてさうや

○鄭義ふり妻

盧氏と唐の鄭義ふりといふ人の妻が女がうまるといふは
老けかてあつて夜に盗賊あつて入つてさうなうた盗賊が
家内の人を盗つて年たつて嫁さういふとて鄭義は
いふ女をうて又の中をうけ入るうたあつてさう
居てさう盗人といふ剛の女うかて去つてさうのうた
人へ家よりうたつてさうなうたうたうたうたうた
近きうたやといふ盧氏といふていふ人のうたうた
まてにその道つてさうなうたうたの里にうたうたうた

いふとあつてさうなうたうたうたうたうた
さういふとあつてさうなうたうたうたうた
さういふとあつてさうなうたうたうたうた
さういふとあつてさうなうたうたうたうた

○賈直言の妻

りうの賈直言の妻と董氏といふて夫の直言罷つて董
南といふと董氏のうたうたうたうた董氏のうたうた
いふと董氏といふと董氏のうたうた董氏のうたうた
なうたうた董氏のうたうた董氏のうたうた董氏のうたうた
董氏のうたうた董氏のうたうた董氏のうたうた董氏のうたうた
董氏のうたうた董氏のうたうた董氏のうたうた董氏のうたうた
董氏のうたうた董氏のうたうた董氏のうたうた董氏のうたうた
董氏のうたうた董氏のうたうた董氏のうたうた董氏のうたうた



たりて後ハ嫁姑の中其の親よりとて一ハ嫁者婦乃
 名をこれのぐり家よりとて是令くい中の者ハ
 ありたり者よりいてやうハ良者嚴者よりいよく交
 びて書とてや一ハ妻もはちハ若婦の名をとて
 い書より一ハ夫の教とてその一ハ其の婦徳とていせ
 ちとて云々一ハ孝ハ妻よりいて教より一ハ其の良妻と
 して枕邊の柔法ハ婦徳とて人と論より一ハ婦を導く
 漢日國とて家と信より一ハ家と信より一ハ婦と信
 まるに一ハや馬也

○姜維

後漢の姜維ハ天水とて処の人から蜀の先主昭烈帝より
 母より妻より生かして蜀の國にけり其の書とてなり

4

姜維がむとて一ハ其の當歸とて薬の事をとていなり
 これの當歸とて一ハ漢の名からこれとてなり
 ありたりとて一ハ蜀の名とてなり
 ありたりとて一ハ姜維が返す一良田百畝あり一畝
 遠志とて一當歸といて一此の良田百畝あり一畝
 の名とて一忠義とて一遠志とて一書に遠志といふ
 薬の名より當歸といふとて一遠志とて一書に遠志といふ
 一とて一果して軍中にて忠死
 一とて一や武士といへり一有る一とて一其の射の事とて一教也

○倣書記

釋正徹とて清嚴和尚とて号次也一倣書記とて一其の
 東鑑の書記とて一いなり一なりとて一其の事とて一其の事



けしふの夜古のきしう 桐のきしうと秋の夜あきの月
 帝は飲いとふきしう 時をを況きとふきしうと還かへ歸かへりてと料しやうと
 請居うけせとふきしうと月つきとふきしうと七月しちがつ魂たまとふきしう
 けしふの夜古のきしう 桐のきしうと秋の夜あきの月
 帝は飲いとふきしう 時をを況きとふきしうと還かへ歸かへりてと料しやうと
 請居うけせとふきしうと月つきとふきしうと七月しちがつ魂たまとふきしう

繪本徳行譚卷之五終



繪本徳行譚卷之六

目録

女に家け 呂ろ許しよ云う 劉りう寛かん 孟もう氏し
 平相國へいしやうこく女に 育智いくち子こ國親こくにん王わう

初はつ丁てい 二に丁てい 三さん丁てい 四し丁てい 五ご丁てい 七しち丁てい

